

献 辞

英語英米文学会会長 伊 藤 貞 基

去る6月の教授会で中村祥子教授の退職願が了承され、教授は2005年3月をもって退職されることになりました。他大学へ転出されるのでもなく、定年までまだ10年余を残してのご退職です。桃山学院大学で英語、英米文学を共に研究し、教えてきた一同にとって、教授のこの突然のご退職のお申し出は、晴天の霹靂、寝耳に水の驚きでした。一身上のご都合によるものとはいえ、長年にわたり本学の発展に貢献して来られ、学問的にも年齢的にも今が最も充実した時期にあり、学部・大学院の今後の発展の中でも中心的な役割を果たされるものと期待されていた教授のこの突然のご退職は、惜みても余りあるものがあります。ここに、深い感謝と惜別の思いを込めて、『英米文学論集』第19号を「中村祥子教授退任記念号」として刊行し、教授の長年に亘る功績を讃えさせていただきます。

中村教授は大阪市立大学文学部英文科を卒業後、同大学大学院修士課程、博士課程へと進まれ、1977年3月に博士課程単位取得満期退学後、同年4月から桃山学院大学社会学部助教授に就任、1986年10月同学部教授に昇任、本学に文学部が設置された1989年からは文学部教授、1993年の大学院文学研究科博士（前期）課程の設置とともに同課程「講義」担当、1997年10月同課程「演習」担当、1999年の博士（後期）課程設置とともに同課程「講義」担当になり、今日に至っていらっしゃいます。文字どおり文学部の誕生、文学研究科の博士（前期）課程そして同博士（後期）課程の誕生と共に今日まで歩んでこられました。学部や研究科の設置に際しての教授の寄与、貢献するところがいかに大であったかは明らかです。

このことは、教授がこれまでに挙げられた学問上の諸業績に如実に反映されています。イギリスの19世紀小説を中心にこれまでに単著1, 共著6, 論文30数編, 研究ノート・書評数編があり, その他に講演や雑誌等に掲載された研究案内などが数編あります。教授の著書『E・ギヤスケルの長篇小説』(1991. 11) は, ブロンテ姉妹, ジョージ・エリオット, ディケンズなどといった著名なイギリスの19世紀作家達の陰に隠れて本国イギリスでも, また, 日本でもこれまで等閑視されてきた19世紀イギリス女性作家エリザベス・ギヤスケルの小説の持つ魅力と現代における意義を明らかにしようとする500頁を越える意欲的な大作で, ギヤスケルのそれぞれの小説が当時の社会の姿をリアルに描き出すと同時に, 高い芸術的レベルを達成していることを緻密な分析を通して立証したもので, その読みの綿密さにより, わが国におけるギヤスケル研究にとって貴重な研究書の一冊となっています。

学内的には, 教授はこれまでに教務委員会委員, 教職課程委員会委員, 入試出題委員会委員(含・英語科目チーフ), 学生生活委員会委員, 社会教育委員会委員, 国際交流実施委員会委員, 大学院入試委員会委員, 総合研究所委員など, 多くの役職を通じて大学運営に大いに貢献されてこられました。最近の大学をめぐる状況の変化や研究環境の悪化がご退職の一因でないことを祈るのみです。

学会活動では, 教授は国内では日本英文学会, 日本ハーディ協会, 日本ギヤスケル協会, 日本ブロンテ協会, 日本ジョージ・エリオット協会, 国際学会では The Gaskell Society, The George Eliot Fellowship に所属され, 大いに活躍してこられました。ご退職後も研究活動は続けられるそうなので, これらの学会で教授とお会いすることがあると思います。

中村祥子教授, 教授のご退職後のご健勝とご多幸を心からお祈りすると共に, 今後ともギヤスケル研究を重ねられ, ギヤスケルの短編論の集大成の上梓などの形を通して, われわれにさらなる学問・教育上の刺激をもたらして下さいることを期待しております。長い間, 本当にご苦勞様でした。

(2004. 11. 26)